



ワツタリガツタリ

芽生えた友情 いつまでも



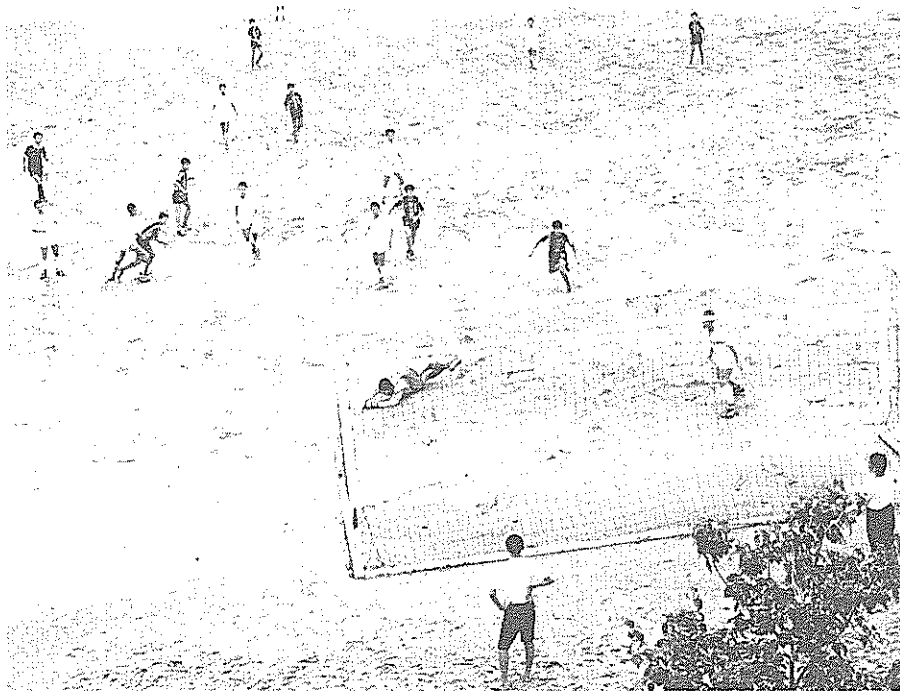
歓迎レセプションのころにはすっかり打ちとけた様子の選手たち。楽しそうに何を話しているのかな。

の交流、視察を行いました。そのうち、スポーツ交流視察団として、中学生のサッカー選手団も同行。本市のミロク機械株式会社との合弁会社「コア・ミロク」がある縁で、安山市元谷（うおんこく）中学校と交流試合を行いました。そのとき「来年はぜひ南国市へ」という話があり、国のアジア地域スポーツ

韓国からサッカー選手団



空港があるという本市の特徴を生かし、チャーター便で隣の国韓国へのダイレクトな旅「市民の翼」を昨年実施。教育事情視察団や産業視察団など、それぞれの目的に合わせ、四泊五日歓迎を受けて、高知空港へ降りたった一行。



交流事業を導入し訪問も一緒に鳴子踊り、皆さんが手つきがいいですね。

来訪した選手団は金康鎬（きむ・かんほ）団長をはじめ、安柄瑞（あん・びよんそん）教育長、選手十五人ら総勢二十五人。

交歓



二十日、一行は栄枝利實市教育長や本市の選手団の歓迎を受けて、高知空港に降り立ちました。香南中学校の女子生徒から花束を受け取り、初めての日本訪問で硬かった選手たちの表情も少しほぐれたようでした。

翌日は、市、県への表敬訪問の後、香野県総合運動公園で練習試合。前の晩よく眠れなかったためか動きが悪く、また、三年生主体の市選抜チームに対して、一年生主体という年齢差

この日の夕方は、両国選手団や昨年の「市民の翼」の団員、関係者約百六十人が参加して歓迎レセプションが開かれました。今後いっそうの友好と親善を誓い合い、なごやかに歓談。その中で安教育長は「第二次世界大戦後、両国はしこりを持ち続けてきたが、文化も似ており、いくらでも近い国になれる。韓国は日本がよき隣人であること

熱闘



泥んこの熱戦。一心不乱にボールを追いつける両国の選手。

西森善郎大塚小学校校長は、

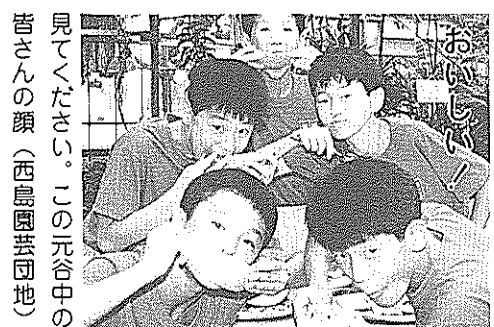
市、県への表敬訪問の後、香野県総合運動公園で練習試合。前の晩よく眠れなかったためか動きが悪く、また、三年生主体の市選抜チームに対して、一年生主体という年齢差

視察



真剣な表情で機械をのぞきこむ（セイレイ工業）

今回の交流にいたった経過を説明した後、韓国の言葉を引用し、「ワツタリガツタリ（来たり行ったり）が友情のスタート。チングヤチング（あなたと私は友達）」と締めくくりました。また、最後の鳴子踊りでは、訪問団の皆さんも踊りの輪の中に入ってくるなど、盛り上がりしました。



皆さんの顔（西島園芸団地）

アジア地域 スポーツ交流事業

年齢差を考えると韓国の方がレベルが高いように思う」と話していました。